



『ホッペル ポッペル、
それともストッペル?』
作:マックス・ボリガー
文:ユゼフ・ヴィルコン
訳:ちかくら ちづる
出版社:評論社

大好き! 絵本

初瀬 恵美



先日は中秋の名月がとてもきれいでしたね。虫の音やさわやかな風など、秋を感じる季節となりました。

さて、今月は『ホッペル ポッペル、それともストッペル?』と魔法の呪文のようなタイトルの絵本を紹介したいと思います。この呪文のような言葉は実は3つ子のうさぎの名前です(笑)3匹はとてもよく似ていて、お母さんウサギもみわけがつかなくて、ときどき困ってしまう程でした。森の動物たちも、3匹の見分けがつかないからと言って、友達にもなってくれませんでした。子ウサギたちはショックで家にとじこもったまま、いたずらも、わるふざげもしなくなりました。心配したお母さんウサギは、「**たびをしておいで。きっと げんきに になれるから!**」と子ウサギたちを旅にださせました。

旅の道中3匹はそれぞれの興味の赴く方へ分かれ別々の経験をします。そして、家に戻ると旅で経験した素敵な話をいきいきと語りました。その話をきいたお母さんウサギは「**きっと これからは、さんびきそれぞれ、まちがえずに なまを よべるようになるのね**」といました。自分らしい世界(個性)をみつけた子ウサギたちは、森の動物と、今度はすぐに友達になることができました。

この絵本を読んで、元気がない子どもたちに「**たびをしておいで。きっと げんきに になれるから!**」と送り出すお母さんウサギは、すごいなと思いました。また、旅を通して自分らしい世界を見つけた子ウサギたちの成長も読んで、たのしく思いました。保育園の子どもたちも、毎日保育園で様々な経験をしています。楽しいこと、つらいこと、時には感動するような経験もしています。そんな経験を通して自分らしい世界」を築いていってほしいなと思いました。

誕生日おめでとう

